

1 単元 その小説ならではの魅力を伝えられる読み手になろう

～『少年の日の思い出』 ヘルマン・ヘッセ／高橋健二 訳（光村図書1年）～

2 指導の立場

＜子どもの実態から＞

子どもは、文学的文章において、読後にもった疑問点から問いを作り、教材を読み深める経験をしてきている。そこでは、問いを解決するために何に着目して文章を読めばよいかを話し合ったり、立てた問いは教材を読み深めるために有効であったかを話し合ったりしてきた。このような子どもが、本単元でも、疑問点から作った問いを追究していくことで、描写や文章構成の面白さなどの魅力をつかむことができるだろう。そうすることで、子どもは作者の表現の意図や巧みさを捉え、よりよく言葉を使おうとする意識を高めていくだろう。

そこで、単元を構想するに当たっては、次のような教材を設定する。

＜教材について＞

本教材は、現在に戻らず回想場面で終わる特殊な構造で、「客＝僕」の心の揺れがこと細かに表現されており、このような構造や描写から多様な解釈ができる教材となっている。ここでは、教材文に対する自他の多様な捉え方に着目しながら、言葉に対する捉えや考えを広げることが大切である。そこで、「この小説の魅力とは何か」について伝え合う活動を設定する。子どもは、教材文に対する自他の捉えを比較しながら、なぜ捉えの違いが生まれるのかを話し合っていく。そうすることで、自分の考える「本小説の魅力」の根拠となる部分やその理由を明確にして、相手が納得するように伝える力を高めていくだろう。

そこで、指導に当たっては、次の点に留意する。

＜指導上の留意点＞

- 単元の初めに、各自が読後にもった疑問点を基に問いを設定し、学習計画を立てる活動を設定する。そうすることで、本単元のゴールまでの道筋をイメージできるようにする。
- 単元の終わりに、作成した帯を基に「本小説の魅力」について伝え合う活動を設定する。そうすることで、他者の捉えた魅力と比較し、捉えの違いが生まれる要因について考察できるようにする。

3 目標

- (1) 事象や行為、心情を表す語句の量を増やすとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。〔知識及び技能〕(1)ウ
- (2) 文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えることができる。〔思考力、判断力、表現力等〕C(1)エ
- (3) 言葉がもつ価値に気付くとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。〔学びに向かう力、人間性等〕

4 指導計画（総時数 9 時間）

次	学習活動・内容	単元の指導上の留意点
一 ②	○ 範読から話のあらすじをつかむ。 ・登場人物や場面設定 ○ 疑問点から作った問いを吟味し、学習計画を立てる。 ・問いの作成、吟味	○ 「この小説の魅力とは何か」について本の帯を作成し、魅力を伝え合うという課題を提示することで、どのような学習をしていく必要があるかについて考え、見通しをもてるようにする。
二 ④	○ 中心人物の人物像について、まとめて話し合う。 ・心情描写や行動描写 ○ 中心人物の対役（エーミール）に対する思いについて、まとめて話し合う。 ・心情描写や行動描写 ・登場人物の関係性 ○ 「僕」が自分のちょうをつぶした理由を根拠を明確にして考え、話し合う。 ・行動描写や情景描写 ・中心人物の変容 ○ 回想場面で話が終わることについてどう思うか、考えをまとめて話し合う。 ・文章構成 ・登場人物の設定	○ 自分で学習活動を選択させることで、各々の進度に応じた学びを計画し、主体的に学ぶことができるようにする。 ○ 課題を解決するためにどのように文章を読むのかを「さぐる」時間を設けることで、明確な視点をもって教材文を読むことができるようにする。 ○ 他者との交流で得た考え方や感じ方と比較させることで、自分の考えを「みがき」、中心人物の変容や文章構成についての自分の考えをまとめることができるようにする。 ○ 自分が選んだ学習過程で捉えた考えを基に交流させることで、自分が学び、考えたことが他者に分かりやすく伝わるか「ためし」、評価できるようにする。
三 ③ 本時 3 / 3	○ 二次で読み取ったことを基に、「本小説の魅力」を伝える帯を作成する。 ・心情描写や行動描写、情景描写 ・登場人物の変容 ・文章構成 ・帯のレイアウト ● 帯を基に「本小説の魅力」を伝え合い、学習を振り返る。 ・表現の工夫 ・問いの視点	○ 自分の考えを文章化、作品化させることで、自分の変容を捉えたり、根拠と理由を明確にしたりすることができるようにする。 ○ 「魅力」について本の帯を作成し、伝え合う活動を設定することで、多くの捉え方や感じ方があることに気付くことができるようにする。

5 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 事象や行為、心情を表す語句の量を増やすとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。 (1ウ)	① 文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えることができる。 (C(1)エ) ② 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものに行うことができる。 (C(1)オ) ③ 根拠を明確にしなが、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができる。 (B(1)ウ)	① 進んで、登場人物の設定や変容について、描写や文章構成を基に具体的に考え、学習の見通しをもって考えたことを文章にまとめようとしている。

6 本時案 ー第三次・3時分ー

(1) 主眼 作成した帯を基に「本小説の魅力」について伝え合う活動を通して、本単元の学びを活かし、明確な根拠をもって魅力が語れたか振り返ることができる。

(2) 準備 ワークシート、学習者用端末

(3) 学習の展開

学習活動・内容	予想される子どもの反応	指導上の留意点	分
1 帯を基に、「本小説の魅力」を語る練習をする ・ 本時への見通し ・ 語りの焦点化	ア 文章構成の面白さについて、回想場面で終わることを基に話したい イ 「僕」とエーミールを比較して、人物設定の面白さについて語ろう	・ 根拠を重要視することを示し、話すことを整理する時間を設けることで、聞き手にわかりやすく魅力を伝えることができるようにする。	10
2 帯を基に、「本小説の魅力」を語り合う ・ 表現内容や表現形式 ・ 文章構成 ・ 意見と根拠の関係性	ア 回想場面で終わることによって、「僕」の憤りや後悔の強さを、読者が余韻をもって感じることができなのが、魅力だと思う イ 「僕」とエーミールを対照的な人物として描くことで、「僕」のちょうに対する熱情を際立たせていることが、魅力だと思う ウ 現在の場面における多くの暗い情景描写が、最後暗い場面で終わることの伏線になっていることが、魅力だと思う	・ 班で魅力を発表し合う際、根拠や理由がはっきりしない生徒がいる場合には、「どこからそう思ったのか」「どうしてそう思ったのか」を問い返すように指示することで、一人一人根拠と理由を明確にもって発言できるようにする。 ・ 魅力がわかりやすく伝わったか、一人発表するごとに振り返る時間を設けることで、自身の発表について見直すことができるようにする。	30
3 本単元の学習を振り返る ・ 学習計画に対する振り返り ・ 問いの視点	ア 登場人物の言動の理由だけでなく、文章の構成にも目を向けることで、様々な魅力に気づくことができた イ 些細な表現に着目して、文脈などをもとに深く読み込むことで、思いもよらない読みをすることができた	・ 本単元全体を通した振り返りを行うことで、「この教材における魅力は何か」という本質的な課題に取り組む上で、立てた問いや学習計画が適切なものであったか、見返すことができるようにする。	50

(4) 評価規準と方法

作成した帯を基に「本小説の魅力」について伝え合う活動を通して、本単元の学びを活かし、明確な根拠をもって魅力が語れたか振り返ることができたか、発言やワークシートの記述からみとる。

<メモ>